

北海道環境白書 '21



<表紙写真>

厚岸霧多布昆布森国定公園

厚岸霧多布昆布森国定公園は、令和3年（2021年）3月30日に、国内では58カ所目、道内では6カ所目の国定公園となり、道内での新たな国定公園の指定は、平成2年の暑寒別天売焼尻国定公園の指定以来約30年ぶりとなりました。

ゼンテイカやヒオウギアヤメなどの湿原性植物のお花畑が見られるほか、ガンカモ類やハクチョウなどの渡り鳥の飛来地となっている厚岸湖、火散布沼などの湖沼、海鳥の営巣地となっている海蝕崖、コシジロウミツバメの繁殖地として国指定鳥獣保護区に指定されている大黒島など見所がたくさんあります。

<裏表紙>

「ゼロカーボン北海道」

令和2年3月に知事が「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることを目指す」ことを表明したことを踏まえ、令和3年3月に「北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）」を策定し、実質ゼロの達成に向けて道のあらゆる施策・計画に脱炭素の観点を組み込み、本道の強みである豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用や森林等の二酸化炭素吸収源の確保、多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化の促進等により、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて取り組むこととしています。

環境白書についてのお問い合わせは、北海道環境生活部環境局環境政策課へご連絡ください。

T e l 011-231-4111（代表） 内線24-205

011-204-5188（直通）

F a x 011-232-1301

U R L <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk>

E-Mail kansei.kankyoku@pref.hokkaido.lg.jp

環境白書の刊行に当たって



近年、気候変動による平均気温の上昇などの影響が世界的に顕在化し、異常気象に伴う大規模災害や生物多様性の損失等が深刻な問題となる中、地球環境の変化に対応するため、持続可能で強靱な社会システムへの変革を促す行動が求められるなど、今、私たちは大きな時代の転換期を迎えています。

道では、国の脱炭素に向けた取組を踏まえ、本年3月に「北海道環境基本計画（第3次）」を策定し、2050年頃のめざす姿として「循環と共生を基調とし環境負荷を最小限に抑えた持続可能な北海道」を掲げ、地域循環共生圏の創造のほか、経済システムのグリーン化や新しいライフスタイルの導入など分野横断的な取組を進めることとしています。

4月には、「北海道気候変動適応センター」を設置し、すでに起こりつつある、または起こりうる気候変動の影響による被害を回避・軽減するため、気候変動に伴う影響に関する情報の収集・分析や発信といった気候変動の影響への「適応」に取り組むとともに、再生可能エネルギーの普及を目的とした太陽光パネル等の導入促進に向けた支援といった気候変動の「緩和」にも取り組んでいるところであり、2050年までの「ゼロカーボン北海道」の実現を目指し、本道が有する豊かな自然や地域資源を活かした再生可能エネルギーと、二酸化炭素の吸収源である広大な森林などを最大限活用し、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける持続可能な地域づくりを進めてまいります。

また、プラスチックごみによる国際的な海洋汚染や気候変動問題を契機として、廃棄物の排出抑制や再資源化といった3R（Reduce—Reuse—Recycle）の取組をはじめとするプラスチックの資源循環の促進が重要となっており、コンビニエンスストアの協力のもとレジ袋の辞退を促すなど、民間企業等と協働しながら、北海道らしい循環型社会形成に向けた取組を進めていきます。

本年3月には、「厚岸霧多布昆布森国定公園」が本道では約30年ぶりとなる6か所目の国定公園に指定されるなど、豊かな自然環境の保全と適正な利用が一層重要となっています。一方で、6月には札幌市東区の市街地でヒグマによる被害が発生するなど、全道各地でヒグマの出没及び人身被害が多発しており、関係機関との連携を強化しながら、自然環境の保全及び野生鳥獣とのあつれき軽減に向けて取り組んでいきます。

本道の豊かな自然環境を守り、持続可能な社会を実現するためには、道民の皆様一人ひとりが環境保全について自分のこととして考え、自らの行動につなげていくことが大切です。

本道の環境の状況や道の施策などを取りまとめた本書が、皆様の環境保全に対する理解を深め、行動の一助になることを心から願っております。

令和3年（2021年）12月

北海道知事 鈴木 直道

